

司会 ①小田茂兄 ②高山吉兄 ③野田兄

奏楽

祈禱 ①三浦兄 ②右沢兄

主の祈り

賛美 聖歌578番 (480番) (たたえよ全能の神を)

聖書 ① ヘブル人への手紙13章20～21節
②③ コリント人への第二の手紙1章1～7節

音楽 ① 坪井永城師
②③ ハンナ・ルツ会 (マザーテレサの歌)

証詞 ① 八代悦子姉

メッセージ ① 「神様はけして遅すぎることはない」 倉知契副牧師
②③ 「人は愛によって生きる」 大川従道牧師

賛美 聖歌430番 (献金)
頌栄 「それ神は」(700番) アーメン
祝禱

「その聖なるすまいにおられる神は

みなしこの父、やもめの保護者である。」

(詩篇六十八の五)

【大和ニュース】

- ・ 本日昼2時から『敬拝と賛美の会』。講師は富田慎悟師(シャローム教会副牧師)
1部:2時～3時10分、2部:3時25分～5時。 無料。どなたもどうぞ!
- ・ 本日、ICA 入学式、入門講座Ⅱ、手話、SS 主任、YY タイム(12:30 森)等あり。
- ・ 今週も祈禱会を大切に! オンヌリ教会故ハ・ヨンジョ師の追悼スペシャル(V)
水曜夜7時半と木曜朝10時半。 (エステル会は木曜昼食後、3階にて)
- ・ 準備祈禱会は、金曜夜9時～10時半。説教は佐々木補教師。
- ・ NEW 週末礼拝は、土曜夕方6時～7時。説教は倉知副牧師。
- * 来週の第3礼拝の説教者は、飯島延浩氏。(山崎製パン社長・聖書研究者)
- * 恒例の『祝賀会』は、来週第3礼拝後。銀婚、金婚、ダイヤモンド婚、喜寿、米寿。
- * 『ジーザスフェスティバル』は、17日(月・祝)10時半開場。①11時～12時20分。
②13時～14時半。*聖歌隊は10時からステージ練習。遅れても参加して下さい。

石の枕

芭蕉の「奥の細道」の中に、曾良という弟子が出て来る。彼は芭蕉と共に奥の細道の旅をつづけていたのであるが、途中で健康を害したため、師と別れて引き返し、縁故者の家で療養せねばならなくなる。その訣別の句として師にささげたのが、「行々(ゆきゆき)て たふれ伏すとも 萩の原」という句であった。

その心は、(いま師と別れてひとり心細く引き返さねばならないが、あるいは途中で病が重くなって倒れ伏すかも知れない。しかし今は萩の花の真っ盛りで、萩は自分の最も好きな花だから、たとえ倒れ伏しても、その伏した所が萩の原であるなら、思い残すところはない)、という意味であろう。

喜び得るときだけ喜ぶというのは、まだ行き行きてなんとか旅がつづけられる状態である。しかし喜びの対象を失って絶望するというのは、行き行きてついに倒れ伏すときである。ふつつならば人間はここで滅びてしまうであろう。

しかしこの瞬間、倒れ伏した私たちが底から支える萩の原として主キリストの愛が実在する故に、私たちはこの絶望のただ中であって、いつも喜ぶことが出来るのである。

もろもろの幸福論は、行き行きて未だ倒れ伏さない間に、私たちが助けてくれる杖やステッキのたぐいである。それはそれなりに意味をもつであろう。しかし行き行きて倒れ伏したときには、もはや杖やステッキでは間に合わなくなる。倒れ伏した者を底から支える救いだけが、最後まで間に合う救いなのである。

この救いに支えられるときはじめて、喜びの喪失された瞬間にも「いつも」生きてゆく勇気が与えられるのである。

しかし、この「底から支える」救いは、具体的には、いかにして起るのであるか。私はその答えを第一ペテロ2章24節に求めたいと思う。「その傷によって、あなたがたはいやされたのである」。主キリストの十字架の傷によって、私たちの傷がいやされたと言うのである。私たちの傷とは、幸福の喪失と解してもよいであろう。

最近読んだ北森嘉蔵師の文を引用した。大塚野百合先生からいただいた『愛と自由のことば』からである。ゆっくり読んで、味わって下さい。

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう!

Aコース:Ⅱコリント1章～7章 Bコース:箴言15章～29章